

國學院大學栃木短期大学

日本文化学科の一年

(平成26年度)

『日本文化学科の一年』（26年度）に寄せて

平成27年4月1日

日本文化学科長 酒寄雅志

日本文化学科は、日本文学・言語文化・日本史の3フィールドにより構成され、日本文化の総合教育を目的としています。

建学の精神に則り、伝統文化としての文学・言語・歴史を学びながら、日本および日本人について熟考し、他国の文化や社会との比較を通して、日本文化の良さを栃木から発信することを目指します。

日本の伝統文化を身につけた教養人、地域社会に貢献できる社会人、キャリア教育を修得した職業人の育成を教育目標としています。

学生、御父母の方々をはじめ、本学卒業生、出身高等学校の先生方に、本学科を知っていただきたく、ここに本誌をお届けいたします。

なお、編集は、塚越義幸教授・坂本達彦准教授・堀江則之准教授が担当しました。本学ホームページにも掲載されていますので、あわせてご参照ください。

学科の行事

○平成26年4月8日 第49回入学式 於 学園創立四十周年記念館

- *新学科第2期生を迎え、入学式が挙行されました。日本文化学科は107名、大きな希望を胸に本学園生活の第一歩を踏み出しました。
- *入学式後、学科の懇談会が催されました。新入学生と父母、学科所属の教員が一同に会しました。学科長の挨拶のあと、クラス担任と教科担当教員の紹介が行われました。その後、フィールドごとに親睦会が開かれました。



〔 学科懇談会 〕

○4月9～12日 オリエンテーション期間

- *学科・フィールド・クラスごとに、教員および教学部のガイダンスが実施されました。入学前に「短大2年間で有意義に過ごすための考え方」を執筆、作成してもらいました。近い将来の進路を考えて、本学で過ごす2年間の学習目標を定めました。

○4月9～11日 宿泊研修会 於 学園錬成館

- *学生へ事前に実施要項を配付し、下記のとおり、宿泊研修会を実施しました。
- *4月9～10日は、1～3組(日本文化・言語文化の2フィールド)、4月10～11日は、4・5組(日本史フィールド)
- *クラス担任がミーティング・懇親会を催して、親睦を深め、仲間をつくり、学習目標と将来の夢を語り合いました。
- *担任は、1組(大山准教授) 2組(塚越教授) 3組(秋山教授)
4組(坂本准教授) 5組(田沼教授) です。
- *夕食と朝食は全員で配膳をしました。共同飲食によって心が一つになったように思われます。

○4月23日 日光二社参拝・祈願

- *毎年恒例の1年生日光親睦旅行が実施されました。日光東照宮、日光二荒山神社本社・中宮祠参集殿を正式参拝しました。本学への入学の奉告と学業成就・健康安全と一緒に祈願しました。



〔 東照宮上神庫にて記念撮影 〕



〔 神職の方から丁寧な説明を受けました 〕

○5月21日 体育祭 於 学園創立四十周年記念館

* 学生会主催の体育祭が、学園創立四十周年記念館において行われました。種目はバレーボール、玉入れ、綱引きが実施され、それぞれの種目で熱戦がくり広げられました。



〔 一致団結して玉入れにチャレンジ 〕

○6月7日 1年生観劇会 於 国立劇場大ホール

* 毎年恒例の1年生観劇会が実施されました。今年の鑑賞教室の演目は、森鷗外による短編小説を宇野信夫が新作歌舞伎として戯曲化した「ぢいさんばあさん」でした。はじめに「歌舞伎のみかた」を中村虎之介が興味深く解説しました。そして演目では「美濃部伊織」を中村橋之助、伊織の妻「るん」を中村扇雀が見事に演じました。学生の皆さんが、これを機会に日本の古典芸能により関心をもってもらえれば幸いです。

○10月15～16日 1年生秋季研修旅行

* 毎年恒例の1年生秋季研修旅行が実施されました。日本文化学科は、懐古園・鬼押し出し園・長野県信濃美術館・善光寺を見学しました。



〔 小諸城址懐古園にて 〕

○平成27年3月18日 第48回卒業式 於 学園創立四十周年記念館

* 第48回卒業式は、来賓・教職員、学生のご家族が列席し、厳かに挙行されました。

* 式後、学科ごとにお祝いの会を催し、クラス担任から卒業証書が卒業生ひとり一人に手渡されました。希望ある人生の成功を祈念いたします。



〔 卒業証書授与 〕

日本文学フィールドの一年

【学生行事】

○斯花アワー

日本文学フィールドの斯花アワーでは、日本文学に関する知識を深めるための歴史散歩や実地踏査、講演会のほか、個人面談を通じた教員と学生のコミュニケーション活動を行っていました。

☆太平山歴史散歩 5月28日

斯花アワーの時間を利用して、太平山の史跡や文学遺跡を踏査しました。大学から出発し、あじさい坂を抜けて、一千段以上の石段を登り、太平山神社奥宮に参拝し、謙信平を通過して大学まで、約1時間のコースを散歩しました。

☆個人面談

5月14日・5月28日（2年生）

6月18日・7月2日（1年生）

斯花アワーを各2週使って、フィールド全員の個人面談を実施しました。進路(就職・進学)、資格取得、学習、学生生活等、さまざまな問題について、相談にのりました。

☆フィールド講演会 11月19日

斯花アワーの時間を利用して、例年通り、外部の先生をお招きして「日本文学フィールド講演会」を735教室で実施しました。今年度お招きしたのは、成城大学教授の山田直巳先生で、タイトルは「昔話『蚕神と馬』を読む—愛と変身—」でした。

「蚕神（おしらすま）と馬」にまつわる昔話を、題材に描かれた時代、社会、価値観を踏まえ、愛が成就されるには変身（メタモルフォーゼ）が必要であったという視点からお話をいただきました。



〔 講演中の山田直巳先生 〕

○フィールド研修 4月4日

2年生の4月初旬にフィールド研修旅行を実施しました。教室を離れ、文学・創作・民俗の“現場”を訪ねて研修し、同じ目的意識を持つ仲間や教員との親睦も深めます。今回は両国にある江戸東京博物館と神保町の古本屋街を訪ねました。

次回は、大神神社(室の八島)、三轟山(万葉歌碑)、大慈寺・村檜神社(慈覚大師・小野小町の墓)、誕生寺、おおひら歴史民俗資料館・大中寺(七不思議)など、栃木県南部を中心とする文学遺跡や神社仏閣、史跡などを巡り、文献だけでなく現地に赴いて、その身で実感することの大切さを理解してもらおうと思っています。



〔江戸東京博物館にて〕



〔神保町交差点にて〕

【高校生向け行事】

オープンキャンパスは、在校生も参加しています。ぜひ一度、オープンキャンパスに参加して、日本文学の雰囲気を感じ取って下さい。

○平成26年度オープンキャンパス

日程	授業体験
7月6日	田中 憲二「歌舞伎を楽しむ」
7月26日	林田 孝和「主人公の生と死」
7月27日	千明 守 「連句を楽しむ」
8月10日	塚越 義幸「漢詩に親しむ」

【在学生の声】

日本文学フィールド 赤坂茉衣

昔から文章を読んだり書いたりするのが大好きでしたから、日本文学を総合的に学べる日本文学フィールドを選びました。そして、短期大学としてはトップクラスの蔵書数を誇る図書館で学んで、図書館司書の資格を取得したいと考えました。将来は先輩方も多数勤務している図書館司書をめざします。個性豊かな先生方のもとで日々新しい知識を得ながら充実した生活を送っています。

日本文学フィールド 江川真貴子

日本文学フィールドに所属してよかったことは、文学を自主的に研究する力を身につけられたことです。少数精鋭で、先生方と学生との距離が近いので、何でも率直に相談できます。そんな恵まれた環境の中、私は教職をめざしたいと考えています。特に学生会での活動が、必ず教職に活かされると思いますので、課外活動への積極的参加の必要性を実感しています。

言語文化フィールドの一年

【学生行事】

○斯花アワー

言語文化フィールドの斯花アワーでは、1年次から学生の希望進路に沿ったサポートを主とした取り組みを行っています。

☆学生カード作成 4月23日

勉強面、生活面、進路に関する質問に回答してもらうことにより、学生カードを作成しました。これを参考資料として、内容を更新しながら、学生の希望進路に向けたサポートを行っています。

☆個別面談

定期的に個別面談を実施し、学生と教員が円滑なコミュニケーションをとりながら、勉強面、生活面、進路に関する話し合いを行っています。



〔面談のようす〕

☆言語文化フィールド 秋の研修 9月18日

「国際都市、東京にみる江戸情緒」のテーマで、言語文化フィールド2年生の研修を行いました。研修コースは、浅草寺及びその周辺、水上バスによる隅田川クルーズ、上野の森美術館です。浅草駅に集合したのち、浅草寺のほか、雷門、仲見世、浅草神社などを散策しました。外国人観光客が多く、浅草が日本文化の発信地であることを実感した一日でした。



〔水上バスにて〕



〔浅草寺にて〕

☆留学生報告会 11月25日

韓国の中心都市ソウルにある漢陽女子大に短期留学した2年生の高野真未さんによる留学生報告会が行われました。漢陽女子大での勉強の様子や日常生活における文化の違いなど、さまざまな観点から話してもらいました。さらに、漢陽女子大との「教育・学術協定に基づく」留学生であるユ・ミンヒさんと、同じく漢陽女子大との「交換学生プログラム」により本学に交換留学生としてきたヨム・クリスティナさん、ジャン・ムンヒさんにも本学に留学した感想を述べてもらいました。



〔報告会のようす〕



〔左よりユ・ミンヒさん、ヨム・クリスティナさん、ジャン・ムンヒさん〕

【高校生向け行事】

オープンキャンパスに参加して、言語・文化・経済などが総合的に学べる本フィールドの楽しさ、おもしろさをぜひ実感して下さい。

○平成26年度オープンキャンパス

日程	授業体験
7月6日	中塩 聖司「体験する経済！」
7月26日	山本 博子「英語のルーツをたどろう」
7月27日	秋山 誠一「お金のはなし」
8月10日	南 芳公「国語辞典を楽しむー辞書の歴史にふれるー」

【在学生の声】

言語文化フィールド 印出 奈津美

私は情報系とビジネス系の資格を取るために言語文化フィールドを選びました。進路は就職を考えていますが、その他にも言語文化フィールドでは國學院大學経済学部への編入や、図書館司書の資格を取ることができます。先生方も親身になって講義して下さいますし、自然豊かで落ち着いた本学ではのびのびと過ごすことができます。2年生でも、悔いのない進路実現の為に、1日1日を大切に努力していきたいと思います。

言語文学フィールド 須藤 和之

私は中学校の国語の教師を目指し、このフィールドに入学しました。本学は、緑がたくさんあり、自然が豊かな場所にあるため、とても楽しく充実した毎日を過ごすことができます。授業では、学生が少人数で、先生も一人ひとりの学生の能力に合わせて講義をしてくれます。2年生になっても、自分の目標を見失わずに、日々努力していきたいと思います。

日本史フィールドの一年

【学生行事】

○斯花アワー

個人面談をはじめ、担任と学生のコミュニケーションをはかる時間としています。その他にもゼミの活動や卒業生からのメッセージやフィールド講演会などの行事も実施しています。

☆卒業生からのメッセージ 7月2日・11月26日

卒業生が自らの在学時代の思い出と就職後の経験をもとに、在校生にメッセージを送ります。毎年、社会人1名、編入した現役大学生(大学院生)1名を招いています。身近な存在からのメッセージなので、在校生にとって刺激になっているようです。

☆日本史フィールド講演会 10月29日

日本史フィールドでは、毎年秋セメスターに著名な研究者をお招きし、最新の研究成果を講演していただいています。今年度は東京国立博物館上席研究員の池田宏氏に「甲冑・絵図・文書―日御碕神社の白糸威鎧を例として―」という演題でお話していただきました。

☆歴史カルタ大会 1月8日

後期の斯花アワーに、学生が日本史を素材としたカルタを作成しました。取り札のイラストも学生によるものです。新年には、そのカルタを使用して大会を開催しました。写真の通り、白熱した勝負が繰り広げられました。



○史跡研修 8月1日

足尾銅山通洞坑、足尾歴史館、古河掛水倶楽部重役宅、(足尾本山駅・本山製錬所)、日光輪王寺 [大猷院・三仏堂・宝物殿]



[雨の大猷院も風情があります]

バスで栃木市周辺の史跡を見学します。教員が引率し、バス内で沿道の歴史について解説するほか、研修先の施設では、スタッフの方が丁寧に解説してくれます。学生は熱心に聞き入っていました。

○古文書実習 8月9・10日(夏季)



[過去の人々の残した文章を読み解きます]

毎年恒例の2年生による古文書実習です。みな悪戦苦闘しながら、実物の古文書を整理し、目録を取ります。教員が丁寧に指導するので、次第に読めるようになります。また、古文書を通して教員と学生の距離も縮まりました。1年生の希望者や卒業生も参加します。

○**考古学発掘実習インターンシップ 8月11・12日、18・19日**

公益財団法人とちぎ未来づくり財団栃木県埋蔵文化センターが行っている小山市西高椅遺跡の発掘に参加しました。

○**夏季ゼミ旅行**

夏休み中にはゼミごとに、各地の史跡・博物館をめぐる研修旅行をおこないました。参加者は各ゼミ生と希望者です。見学の成果は、秋の斯花祭(学園祭)でパネル展示しました。

ゼミ	期間	場所
古代史・宗教史合同	8月31～9月3日	京都・奈良
中世史	8月26～28日	愛知・岐阜・滋賀
近世史・西洋史合同	9月11～13日	広島・山口
近代史	9月16日	東京
考古学	8月21～22日	東京

○**古文書実習 12月17・18日(冬季)**

毎年恒例の1年生による古文書実習です。古文書に触れ、整理を行います。学生は、悪戦苦闘の末、教員の丁寧な指導により少し読めるようになりました。2年生の希望者や卒業生も参加します。

○**卒業研究発表会 2月10日**

本フィールドの2年生は、考古学・古代史・中世史・近世史・近代史・外国史・宗教史のいずれかのゼミに所属し、卒業研究を執筆します。卒業研究発表会では、各ゼミの代表がフィールドの全学生の前で発表します。発表者以外の学生も、卒業研究のポスター発表を行います。

本フィールドでは、担任制とともにゼミ制を採用しております。指導教員は第2の担任のような存在で、学生から様々な相談を受け付けます。



〔パワーポイントも用い、卒業研究の成果を報告します〕



〔ポスター発表に聞き入る1年生〕

【高校生向け行事】

オープンキャンパスの模擬授業は、本学教職員のみならず在校生も指導助手として参加しています。授業後には、博物館相当施設である参考館において、見学会を行っています。

○高校生のためのサマースクール「博物館学芸員を体験しよう！」

日程	内容
8月9日	坂本達彦「犬公方を語る！」
	田沼真弓「千と千尋の神隠し」
	寺崎宣昭「大航海時代のスパイス」

○平成26年度オープンキャンパス

日程	授業体験
7月6日	小林 青樹「土器の拓本をとろう！」
7月26日	田中 正弘「土方歳三の文書を読もう！」
7月27日	酒奇 雅志「よろいを着よう！」
8月10日	鍛代 敏雄「戦国武将のサインとハンコ」



〔実際に鎧を着てみました！〕

【在校生の声】

日本史フィールド 渡辺 明日奈

短大は高校時代より自由な時間が増えます。その時間を、いかに自分の学びの目的に沿って使うかが大学生活を有意義に過ごす鍵だと思います。本学では、ナマの歴史資料に触れる機会がたくさんあります。私は何事も経験だと思い、発掘や資料館のボランティアなどに積極的に参加しました。特に発掘は初めての経験だったので、少ない日数でしたが自分にとって大きな経験となりました。また、この学校は先生との距離が近く、最初は緊張すると思いますが、気軽に研究室に行って勉強に関する質問をすることや、貴重な体験談を聞く事ができます。私は国柄のこの点が一番好きです。

日本史フィールド 加藤 溪

日本史フィールドの2年間は、日本史に親しむ様々な講義やイベントが盛りだくさんです。しかし、一番の特徴は、日常的な先生と学生の密接な距離感、つまり先生方との関係にあると思います。例えば講義が終わった後や研究室へ伺った際、講義について質問をすると、どの先生も納得するまでしっかりと解説してくれます。また、勉強以外の相談であっても、とても親身になって答えてくれます。このような環境に身を置くことで、歴史学への関心は勿論、短大卒業後の具体的なビジョンも明確になってきます。私は本学卒業後に國學院大學へ編入をしますが、編入を決心したのも、先生方の影響が大きいです。短大での2年間は“何を目標に、どのように過ごすか”で大きく異なると思います。そして、その2年間で見た新たな目標へ進むために、先生や学校はしっかりとサポートをしてくれます。本学の日本史フィールドは、大好きな歴史への関心を深められ、自らの将来像を描くための最高の環境だと思います。

【日本文化学科の一年】

平成27年4月1日 発行

〒328-8588 栃木県栃木市平井町608番地

TEL 0282 (22) 5511(代表)

ホームページ: <http://www.kokugakuintochigi.ac.jp/tandai/>

発行 國學院大學栃木短期大学日本文化学科

編集 酒寄雅志 塚越義幸
坂本達彦 堀江則之